



身近な地域で災害から命を守るために

地域住民の人間関係が希薄となるなか、防災の大きな課題は、安否確認や発災時の支え合いを身近な地域で進めることです。本講座では、災害の仕組みや関連する法律制度等を学ぶとともに、東日本大震災や台風19号災害などの事例やDIGを用いたグループワークから、「自助」「共助」の大切さ、近隣住民による災害への備えについて学びました。(受講者 12名)

〈研修内容〉

- 講師 松本大学名誉教授 (松本大学地域防災科学研究所前所長)
木村 晴壽 氏
- 講義 「身近な地域で災害から命を守るために」
- 演習 DIG・グループワーク



受講者アンケートから

- 映像で実際の災害の様子をみて、自分の命は自分で守ることの大切さ、共助という意識を持つことをしっかり考えたいと思いました。(幼・保)
- 学校の防災教育にも役立つ内容であり実践したいです。(教職員)
- 正解がなく、やはり難しい事だと改めて思いましたが、グループで話す中で、色々なことを考えることが出来たので、良かったと思います。(社協)
- 自分の地域を考えるキッカケになった。(市町村)
- 自分ひとりでは思いつかないことを、グループの方々から教えていただきました。地域の方との事前の関係づくりも大切ですね。(教職員)